

東京第一、東京第二、東京第五検審査務局長との質疑応答メモ

10月28日、東京第五検審査務局に審査員ならびに審査員候補者の生年月日の情報開示を求めたが、12月15日東京第五検審査務局は「生年月日は個人情報であるので不開示とする」との開示通知文書を送付してきた。12月22日検察審査会に出かけ、抗議した。

対応した橋本博司東京第五検審査務局長(傳田氏の後任)、長瀬光信東京第一検審査務局長、東京第一検審査小林久利東京第一検審査務局長との質疑応答は以下の通り。

「生年月日は個人情報」について

- 志岐 「これ読んでほしい」
(行政機関の保有する情報の公開に関する法律)の第5条のコピーを渡す)
- 橋村 「わかっているから、読む必要はない」
- 志岐 「(開示しなくともよい文書は)当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるものとなっている」
- 志岐 「今回の場合の生年月日がどうして個人識別情報に当たるのか？」
- 橋村 「私の判断では個人識別情報」
- 志岐 「貴方は条文を理解できないのですか。小学生だってこの条文読めば貴方のようなこととは言わない。」
- 志岐 「法律では“すべからず行政文書は公開しなければならないが、個人を特定できるものに限って公開しなくてもよい”となっているんですよ。この場合、生年月日は個人を特定することになりませんね。」
- 橋村 「私の判断では個人識別情報」(段々声が小さくなる)
- 長瀬 「第五検審査務局長がそう言うのだから、理解して下さい」
- 志岐 「貴方達の判断が正しいかどうか、これから局員の皆様に聞いてみましょう」
- 長瀬 「それは困る。今仕事中だから」
- 結局何度聞いても「私の判断でそうなります」としか言わなかった。

「審査員平均年齢」について

- 志岐 「二回とも34.55歳になる確率は100万分の1です。偶然でも起こりませんよ」
- 長瀬 「ゼロではないですよ？」
- 志岐 「実際には発生しないということです」
- 長瀬 「それがあったんです」
- 志岐 「100万回に1回ということは、毎日100回クジを引いて27年でやっと1回出てくるかどうかということですよ。最初のくじで引き当てるなんてありえない。検審査の方は超能力でもお持ちですか」
- 長瀬 「……」(無言)
- 志岐 「日本の成人の平均年齢は50歳に近い。若者は仕事もあり辞退する人が多いかもしれないが、60歳を超えた人は時間もありませんし辞退も少ないと思う。34.55歳などありえない。」
- 橋村 「それは志岐さんの考え。若いグループになることだってありうる。」
- 志岐 「平均年齢3度も言い直すなんてありえない。若すぎるといわれて慌てて平

- 均年齢かさ上げしようとしたから間違えたのでしょうか」
- 橋村 「(志岐以前送付した東京新聞記事のコピーを見ながら)「東京新聞に書かれた通りです」
- 志岐 「平均年齢言い直しとその理由説明が怪しく、多くの市民が検審事務局に大きな不信を抱いている。だから、個々の年齢(生年月日)などの情報を明らかにすべきという内容のことが書かれている。年齢がクルクル変わったことの経過を具体的な数字を出して説明してほしい。」
- 橋村 「……。」(沈黙)
- 志岐 「私が解析したカラクリを説明しましょう」
(拙ブログ『12月20日「平均年齢クルクル言い直しも”インチキ審査員設定を誤魔化す算段だった！」』のコピーを渡し、説明、
<http://civilopinions.main.jp/2011/12/1220.html>』)

誰が平均年齢を計算したのか

- 志岐 「第五検審事務局の金子検審事務官が平均年齢を出したのか？」
- 橋村 「第五の方で資料(議決審査員名簿か)は出したが、平均年齢を計算したのは手嶋総務課長。」

審査員選定ソフトについて

審査員選定ソフトについて、橋村氏と小林氏に尋ねたが、彼らはソフトの内容を殆んど知らなかった。こちらから、森ゆうこ議員のブログの「資料サイト」に掲載されている『恣意的に検察審査員を選ぶ方法(悪意のある場合の実証例)』のコピーを見せながら、「このソフトはこんなインチキが出来るのですよ」と説明した。

<http://my-dream.air-nifty.com/siryu/files/444.pdf>

- 橋村 「この資料はどのようにして作られたのか」
- 志岐 「これで“審査員にしたい人”を審査員に出来ますね」
- 橋村 「4月にきたばかりでよくわからないが、将来改善した方がよいと思う。ただ使う人がしっかりしていれば大丈夫だが。」
小林氏も頷いた。
- 志岐 「ソフトを使う前はどのようなクジ引きをやっていたのですか？」
- 小林 「話でしか聞いていないが、グルグル回すやつでやっていたようです。1から100までの番号が書かれた玉を10から12個出す方法です。」
- 志岐 「年4回しかクジ引きやらないのだから、そのガラガラポンで充分ですよ」
- 小林 「そうですね」

最後に

- 志岐 「ほんの僅かな人が不正をした。そのお陰で、全国の検察審査会が疑われ、国民から白い目で見られている。残念な話だ。橋村さんも、傳田さんの後始末で嘘ついたりして自分を追い込む必要はないと思う。不正の事実を明らかにし、改めるべきところは改めて、再出発をした方がよいと思う」

橋村氏は無言。小林氏は、こちらの目を見て時々頷く。